

1987(昭和62)年度事業報告書

(財)滋賀県水産振興協会

1999年3月

1 放流事業

前年度と同様に初期保育施設を使用し、ニゴロブナ、ホンモロコともふ化仔魚を中心とした放流を行った。初期保育施設での仔稚魚の保護育成については水産試験場に試験調査を委託した。陸上池では稚魚の種苗生産を継続して行った。今年度より国、県の補助を受け琵琶湖栽培漁業センターの施設整備を開始した。

1.1 ニゴロブナ

1.1.1 親魚養成

表 1 に結果を示した。

1.1.2 採卵、ふ化

表 2 に結果を示した。ふ化仔魚 10,125 千尾（前年比 70%）を生産した。尾数は同一、同日の親魚水槽で採集したキンラン 1 枠当りのふ化仔魚を計数し、付着卵数、ふ化率は一定であると仮定し、推定した。

1.1.3 種苗生産

表 3 に結果を示した。全長 35.0mm、29 千尾（前年比 10%）を生産した。湖上網生簀種苗生産を海老江初期保育施設内で実施したが、生産成績は悪かった。これは 供試魚がふ化後 5～7 日を経過していた、風波による網ずれを受けた仔魚が多かった、強い注水で物理的な衝撃が大きかった

表 1: ニゴロブナ親魚養成結果

年級	飼育水槽	飼育期間	収容		取上		歩留り (%)	備考
			尾数 (尾)	重量 (Kg)	尾数 (尾)	重量 (Kg)		
0+	40m ² × 2 面	'87/7/10 ~ '87/10-11 月	22,700	22	13,700	140	60	
1+	100m ² × 1 面	'86/10/20 ~ '87/11/16	15,700	127	10,400	551	66	
2+	100m ² × 1 面	'86/10/31 ~ '87/11/11	9,400	437	8,600	846	91	
3+	100m ² × 1 面	'86/10/29 ~ '87/10/20	10,100	440	9,600	684	95	
4+	40m ² × 1 面	'86/9/8 ~ '87/9/10	2,100	131	1,100	85	52	
6+	8m ² × 1 面	'86/11/25 ~ '87/9/28	524	54	521	72	99	
合計	428m ²		60,524	1,211	43,921	2,378	73	
前年比	73%		50%	95%	52%	115%	104%	

表 2: ニゴロブナふ化仔魚生産結果

区分	飼育水槽	親魚		ふ化仔魚 生産尾数 (千尾)	1尾あたりの ふ化仔魚数 (尾)	備考
		尾数 (尾)	重量 (Kg)			
2+	100m ² × 1 面	9,400	437	2,635	561	
3+	100m ² × 1 面	10,100	440	5,324	1,054	
4+	40m ² × 1 面	2,100	131	1,406	1,339	
6+	8m ² × 1 面	524	54	760	2,901	水試所有魚
合計	248m ²	22,124	1,062	10,125	915	
前年比	45%	64%	90%	70%	111%	

表 3: ニゴロブナの種苗生産結果

No.	飼育水槽	飼育期間 (平均飼育日数)	収容 尾数 (千尾)	取上		歩留 (%)	備考
				尾数 (千尾)	全長 (mm)		
1 池中網生簀	3.0m ² × 0.8m × 2 張	'87/5/20 ~ 7/10(51)	78	23	41.7	29	
2 湖上網生簀	1.0m ² × 1.0m × 1 張	'87/7/21 ~ 8/5(15)	50	6	9.4	12	海老江地先
合計	41m ²	(39)	128	29	35.0	23	
前年比	100%		34%	10%	162%	30%	

「1 池中網生簀」は 40m² × 1.0m × 1 面に網生簀を設置し生産した。

ことなどが影響したと思われた。

1.1.4 中間育成

表 4 に結果を示した。前年度に引き続き、湖上網生簀での中間育成を漁連に委託した。

表 4: ニゴロブナ中間育成結果

場所	飼育規模	飼育期間 (日数)	収容		取上		歩留り (%)
			尾数 (千尾)	全長 (mm)	尾数 (千尾)	全長 (mm)	
守山	4 × 4 × 3.5m × 1 張	'87/7/2 ~ 8/4(33)	30	-	16	58.1	53
沖島	4 × 4 × 3.5m × 1 張	'87/7/3 ~ 8/6(34)	30	-	24	58.7	80
合計	32m ²	(34)	60	-	40	58.5	67
前年比	114%	97%	100%		83%	103%	84%

表 5: ニゴロブナ放流結果

放流群	放流日	場所	尾数		備考
			(千尾)	(mm)	
ふ化仔魚	'85/5 - 7月	雄琴初期保育施設	4,380	6	施設内の網生簀内でふ化
	'87/5 - 7月	長命寺初期保育施設	3,530	6	"
	'87/5 - 7月	海老江初期保育施設	2,680	6	"
	合計		10,590	6	
6cm 稚魚	'87/8/4	守山地先	16	58.1	漁連委託分
	'87/8/6	沖島地先	24	58.7	"
	合計		40	58.5	
大型魚	'87/5/28	西の湖	2,100尾	154	3才魚

表 6: ホンモロコ親魚養成結果

年級	飼育水槽	飼育期間	収容		取上		歩留り (%)	備考
			尾数 (尾)	重量 (Kg)	尾数 (尾)	重量 (Kg)		
0+	40m ² × 2面	'87/7/14 ~ '87/10-11月	60,100	13	34,700	106	58	
1+	43m ² × 5面	'86/11/8 ~ '87/10-11月	160,400	371	25,210	225	16	*1
2+	43m ² × 2面	'86/11/14 ~ '87/11月	37,000	219	8,650	103	23	
2+,3+	43m ² × 1面	'86/10/15 ~ '87/11/5	17,000	126	6,400	73	38	*2
合計	424m ²		274,500	729	74,960	507	27	
前年比	44%		83%	193%	38%	76%	45%	

*1 収容は、途中 8400 尾、22.48kg を追加した値を記載する

*2 収容は、途中 10,800 尾、67.43kg を追加した値を記載する、取上げ後一部実験に提供 (16.35kg、1,400 尾)

1.1.5 放流

表 5 に結果を示した。

1.2 ホンモロコ

水産試験場陸上水槽での種苗生産、および、湖上網生簀でのふ化仔魚放流、種苗生産を行った。初期保育施設での種苗生産、放流について水産試験場に試験調査を、湖上網生簀での中間育成、放流を県漁業協同組合連合会に委託した。これらの結果についても本報告に記載した。

1.2.1 親魚養成

表 6 に結果を示した。

表 7: ホンモロコふ化仔魚生産結果

年級	飼育水槽	親魚		ふ化仔魚	1尾当りの
		尾数 (尾)	重量 (Kg)	生産尾数 (千尾)	生産尾数 (尾)
1+	43m ² × 5面	160,400	371	614	8
2+	43m ² × 2面	37,000	219	1,785	96
2+,3+	43m ² × 1面	17,000	126	996	117
合計	344m ²	214,400	716	3,395	32
前年比	45%	97%	184%	25%	26%

表 8: ホンモロコ種苗生産結果 (湖上網生簀種苗生産を含む)

区分	飼育規模	飼育期間 (平均飼育日数)	収容	取上		歩留 (%)	備考
			尾数 (千尾)	尾数 (千尾)	全長 (mm)		
1 陸上水槽	40m ² × 0.6m × 1面	'87/5/21 ~ 7/14(54)	94	60	25.1	64	
2 湖上網生簀	1.0m ² × 1.0m × 2張	'87/7/21 ~ 8/5(15)	186	6	11.9	3	海老江地先
合計	42m ²	(28)	280	66	23.9	24	
前年比	93%	133%	37%	24%	110%	67%	

1.2.2 採卵、ふ化

表 10 に結果を示した。ふ化仔魚 3,395 千尾 (前年比 25%) を生産した。親魚量を増やしたが、ふ化仔魚生産尾数は大きく減少した。尾数は同一、同日の親魚水槽で採集したキンラン 1 枠当りのふ化仔魚を計数し、付着卵数、ふ化率は一定であると仮定し、推定した。

1.2.3 種苗生産

表 10 に結果を示した。全長 23.9mm、66 千尾 (前年比 24%) を生産した。湖上網生簀種苗生産を海老江初期保育施設内で実施したが、生産成績は悪かった。これは供試魚がふ化後 5~7 日を経過していた、風波による網ずれを受けた仔魚が多かった、強い注水で物理的な衝撃が大きかったことなどが影響したと思われる。

1.2.4 中間育成

表 9 に結果を示した。前年度に引き続き、湖上網生簀での中間育成を漁連に委託した。

表 9: ホンモロコ中間育成結果

場所	飼育規模	飼育期間 (日数)	収容		取上		歩留り (%)
			尾数 (千尾)	全長 (mm)	尾数 (千尾)	全長 (mm)	
守山	4×4×3.5m×1 張	'87/7/2～8/4(33)	50	-	30	45.2	60
沖島	4×4×3.5m×2 張	'87/7/3～8/6(34)	100	-	65	50.2	65
合計	48m ²	(34)	150	-	95	48.6	63
前年比	52%	92%	44%	-	39%	118%	89%

表 10: ホンモロコ放流結果

放流群	放流日	場所	尾数 (千尾)	全長 (mm)	備考
ふ化仔魚	'87/4月 - 6月	雄琴初期保育施設	1,200	5	施設内の網生簀内でふ化
	'87/5月 - 7月	長命寺初期保育施設	1,420	5	"
	'87/4月 - 7月	海老江初期保育施設	1,520	5	"
	合計		4,140	5	
6cm 稚魚	'87/8/4	守山地先	30	45.2	漁連委託分
	'87/8/6	沖島地先	65	50.2	"
	合計		95	48.6	

1.2.5 放流

表 10 に結果を示した。ふ化仔魚を中心に放流した。ふ化仔魚は水産試験場で自然採卵したものをキンラン（人工魚巢）に付着させたまま活魚水槽で輸送し、初期保育施設内の網イケースに収容、同所でふ化させ自然放流した。

2 その他

2.1 委託

2.1.1 初期保育施設管理運営事業

雄琴、長命寺、海老江の初期保育施設の管理点検を地元漁協に委託した。

2.1.2 温水魚資源対策試験調査受託事業

初期保育施設の運営の参考とするため、昭和 61 年度から 3ヶ年計画で、施設内およびその周辺の環境調査、網生簀養成試験、食害魚調査および放流魚の動向調査等を委託実施しているが、本年度も継続して行い、昭和 63

年 3 月に「昭和 62 年度 温水魚資源対策試験調査受託事業の実績報告書」を受けた。

2.1.3 温水魚増殖対策事業

前年度に引き続き、湖中での中間育成による放流試験を、県漁連に委託して守山、沖島漁協で行い、昭和 63 年 3 月に「昭和 62 年度 温水魚増殖対策中間育成受託実験事業の実績報告書」を受けた。

2.1.4 貝類増殖対策事業

琵琶湖特産のセタシジミが近年著しく減産しているため、関係者による「セタシジミ増殖に関する研究会」を開催して、今年度は特に、県水産試験場で成功したセタシジミの人工種苗生産技術を中心に検討協議し、昭和 63 年 2 月に「琵琶湖のセタシジミ（琵琶湖のセタシジミと他県のしじみ）」を作成し、関係団体に配布した。また、県漁連が実施しているセタシジミの増殖対策事業に助成した。実施結果は、以下の通りである。

セタシジミ増殖に関する研究会

日時	昭和 63 年 2 月 19 日
場所	大津市 水産会館
出席者	漁連、水産課、水試、協会の各職員
内容	セタシジミの種苗生産について

セタシジミ増殖対策事業

協会助成額	1,000,000 円
事業の概要	(親貝放流)
期間	昭和 62 年 4 月～昭和 63 年 3 月
場所	志賀町小野地先沖合
放流量	2,740kg、884,000 個 (平均体重 3.1g)
放流面積	13,900 m^2 (80m × 80m, 150m × 50m)

2.2 研修

2.2.1 現地研修

今後の本協会の事業推進に資するため運営状況について、次の県を实地調査した。

兵庫県栽培漁業センター

日時 昭和 62 年 10 月 13～14 日
場所 同県明石市二見町
派遣人数 理事長、理事、評議員、協会職員等、31 名

また、豊かな海づくり大会に参加した。

日時 昭和 62 年 7 月 19 日
場所 鹿児島県枕崎市
派遣人数 県職員、漁連職員、協会役職員等、12 名

2.2.2 技術研修

将来の協会事業の運営に備えて、前年度に引き続いて職員を県水産試験場に派遣し、温水魚の増殖技術の実務について技術者研修を実施した。

場所 滋賀県水産試験場（彦根市）
期間 昭和 62 年 4 月 1 日～昭和 63 年 3 月 31 日
派遣人数 2 名

また、次の研修会に協会職員を参加させた。

全振協主催 中央講習会（神奈川県箱根湯本）
日裁協主催 栽培漁業技術研修事業・基礎理論コース（東京都千代田区）
日水資主催 魚病技術者研修魚類防疫士コース（東京都）
水産庁主催 栽培漁業瀬戸内海ブロック会議（香川県高松市）
増養殖場検討会（青森県青森市）
県漁青連主催 先進地技術研修旅行（福井県南条郡河野村）

2.3 各種検討会

2.3.1 琵琶湖地域栽培漁業推進協議会

前年度に引き続き、「栽培漁業推進協議会」を開催し、審議等が行われた。協議会の実施状況は以下の通りである。

昭和 62 年度 栽培漁業増殖放流実施結果検討会（昭和 62 年 8 月 28 日）

場所 共済会館びわこ

検討事項 昭和 62 年度 種苗放流事業の実施状況について
種苗放流事業の実施結果の検討について

初期保育施設運営検討会（昭和 62 年 9 月 28 日）

場所 大津市 水産会館

協議事項 初期保育施設（湖中施設）の管理運営について

昭和 63 年度 水産増殖事業協議会（県漁連と共催）（昭和 63 年 2 月 19 日）

場所 大津市 水産会館

協議事項 昭和 62 年度 水産増殖事業実施報告について
昭和 63 年度 水産増殖事業実施計画（案）について

2.3.2 栽培漁業センター建設委員会

前年度に引き続き、「栽培漁業センター建設委員会」を開催し、審議等が行われた。委員会の実施状況は以下の通りである。

回	開催日	場所	検討内容
第 4 回	'87/8/7	水産会館	栽培漁業センターの建設について

2.4 普及事業

2.4.1 情報提供事業（水振協ニュース）

本年度の県が進めている琵琶湖漁業の振興対策や、県漁連が取り組んでいる事業の紹介、協会が実施する温水魚の資源対策、漁業者年金等、水産に関する情報を掲載した「水振協ニュース」を年 2 回（各 3,000 部）発行し、漁業者や漁業協同組合等に配布した。

（主な内容）

第 6 号（昭和 62 年 7 月）

水産試験場バイテク実験棟の開設を祝して

昭和 62 年度の水産行政（県の琵琶湖漁業振興施策から）

ニゴロブナ、ホンモロコの産卵繁殖場づくり（大規模増殖場の完成）

県漁連だより（県漁連の取り組み）

漁獲統計

第7号(昭和63年3月)

琵琶湖栽培漁業センターの建設がスタート

漁獲統計

2.4.2 湖国農林水産まつり

前年に引き続き、県内の農林水産業の発展と普及を願い「湖国農林水産まつり」が開催された。協会も各水産団体と共にこれに参加し、つくり育てる漁業をアピールした。

開催日 昭和62年10月17日～18日

場所 大津市皇子が丘公園周辺

2.4.3 栽培漁業(つくり育てる漁業)のPR

メモセットを各水産関係団体に配布し、栽培漁業(つくり育てる漁業)のPRをおこなった。